

健康登山15:周辺の山09(大比叡・もたて山・壺笠山)

コース	ケーブル八瀬駅 2.0km/89 分岐 0.9km/25 1.7km/52	松尾峠 1.6km/42 大比叡 2.5km/46 植林道下林道 1.4km/33	登山道合流 0.9km/17 もたて山 0.8km/22 壺笠山 2.4km/37	四明岳 ケーブル延暦寺駅 京阪穴太駅
水平距離	14.2km		断面図 縦軸：高度m 横軸：距離km	
水平換算距離	18.1km			
累計高低差	登り1226m、下り1226m			
標準歩行時間	6:03			
実績歩行時間	7:00			



山行報告

山行日 2006・8・3(木) 天候 晴れ 参加者 7名

行動 ケーブル八瀬駅9:00 松尾峠10:13 登山道合流11:13 四明岳分岐11:28~58 大比叡12:26 阿弥陀堂12:49 もたて山13:34 ケーブル延暦寺駅14:03 624m地点13:40 植林道下林道15:12 壺笠山16:01 京阪穴太駅17:00

記録

比叡山とは大比叡・四明岳・水井山・横高山の総称で30を越える登山道があると言われている。今回は一般的なルートで水井山と横高山を歩いた。今回は大比叡と城跡のある壺笠山をあまり歩かれていないコースを辿って歩いた。  
梅雨は明けたが猛暑の季節なので熱中症に気をつけてゆっくり歩いた。  
松尾峠は古い登山道で、道が平均的な勾配でつくられているので歩きやすく、1時間ほど歩くと松尾峠に着く。峠から景色は見えないが、少し風があり休みをとった。  
峠から30mほど下ると林道に出る。ここから1.7kmで250mの登りになる林道を歩き、ケーブル比叡駅と延暦寺を結ぶ登山道に合流した。さらに1km弱西へ歩き、四明岳の登り口にある展望台で昼食を摂った。岩倉の里と横高山や水井山がよく見えた。  
昼食後、比叡山頂駐車場で飲み物を買って、大比叡に登り、阿弥陀堂へ下った。ケーブル延暦寺駅から紀貫之の墓があるもたて山まで往復した。東海自然歩道に沿って明王堂、弁天堂を経て624m地点まで進んだ。ここから先は自然歩道が通行止めになっているので植林道を南に向って下り四つ谷川の源流平子谷へ降りた。植林地は若木を守るために鹿除けの策が設けられていてその縁に沿って歩くのに苦労した。  
林道を下り、途中にある壺笠山に登った。城跡のある山だが、道も展望もない。  
しかし、今回登った『もたて山と壺笠山』は湖西線の西大津～坂本駅あたりから見える山で今後この景色を見るたびに思い出すでしょうというような話をした。  
壺笠山を下山後はひたすら林道を下り県道47号線と交差する地点で解散した。  
JR利用者は唐崎駅へ、京阪利用者は穴太駅へ向った。  
今回は参加者7名全員が完歩された。



周辺の山 (八瀬~大比叡・もたて山・壺笠山~穴太駅)



八瀬を出発  
9:00



松尾峠にて  
10:22



登山道と合流  
11:13



展望台で昼食  
11:50



大比叡にて  
12:28



阿弥陀堂  
12:49



もたて山  
13:34



延暦寺駅  
14:00



植林道を下る  
15:01



林道から  
壺笠山  
15:35

名所・旧跡ミニガイド（周辺の山：八瀬～大比叡～もたて山～壺笠山～穴太）

西塔橋：八瀬ケーブル駅前の高野川に架かる橋、叡山西塔への参詣道起点でもあった。

八瀬：壬申の乱で矢疵を背に負った大海人皇子（天武天皇）を看護した里人が釜ぶろを仕立てて療養し矢傷を治したので矢背と名付け（大和本記）それがいつの間にか八瀬となったという。本来は高野川の岩石多い溪谷の激つ瀬をなした処で、七瀬、四瀬、三の瀬などの小字も有り、多くの瀬（八瀬）があった地形からの呼び名とも。

松尾坂：八瀬西塔橋から西塔の釈迦堂へ直接向かう古道「浄刹結界跡」石柱あり。現在は途中から林道に変わるが林道上方は西方の展望は良い。

浄刹：清浄な寺院やその境内、戒律を犯さないように一定の区域を定め外からの出入りを制限する摂僧界。また外道悪魔が入るのを防ぐことと、仏道修行の障害となるもの入ることを禁ずる地点。（大辞泉より）

空中ケーブル跡：西塔の釈迦堂参詣のため昭和3年開通、戦時中に廃止された。

（昭和7年の運賃は7銭）蛇が池スキー場跡付近の高祖谷駅から釈迦堂近くの延暦寺駅で釈迦堂へ容易に参詣できたという。延暦寺駅は現在木場になっている。両駅とも当時の駅跡痕跡があり探索の人達もおられる。現在のロープウェイは昭和31年の開通で山頂駅は四明ヶ岳側です。

鎮護国家碑：仏教によって国を守り安泰にすること。鎌倉時代元寇のときの祈祷が有名。

比叡山：『大叡、天台山、大嵩』の呼び名もあります。

『大叡』を中心に『四明ヶ岳、水井山、釈迦岳（横高山）』を含めた四つの峰を総称し比叡山とよばれます。京都では『川』といえは加茂川『山』といえは比叡山のことであった、比叡山は見る処によって姿が変化する双頭の山で、堀川一条辺りから見ると山ひだの曲線が美しいので「都の不二」と呼ばれて歌などにも詠まれた。

四明ヶ岳：838.8m 三角点なし京都側の最高峰。（大叡 848.3m 一等三角点）「世の中に山てふ山は多かれど山とは比叡のみを山をぞいう」慈円（1155～1225）の歌碑がある。

紀貫之の墓：「木工頭紀貫之朝臣之墳」（？～946年）平安前期を代表する歌人、三十六歌仙の一人、仮名文学、日記文学の初めといわれる土佐日記の作者、裳立山（もたて山、595m）をこよなく愛し自分の墓を此処に建てるようにいった。東塔より南東へ張り出した尾根の肩にあたる、琵琶湖、大津市内、大阪の高層ビル群まで見える。

無動寺明王堂：千日回峯行の中心、最後の不眠不休の行はここで行はれる。この行の始祖、相応和尚の石像がある。7月18日夜は坊村の葛川明王堂で修行中の相応が滝壺に不動明王を見出し滝に飛び込んだ故事にちなむ太鼓回しの儀式（祭り）がある。

弁天堂：相応和尚を守るため白蛇になって現れたという辨才天を祀る。

閼伽井：明王堂の本尊の不動明王に捧げる閼伽（清水）をとる井戸。

無動寺坂：比叡山大殺戮の信長軍（光秀軍）が坂本から駆け登った道。

壺笠山：標高423m。元亀元年（1570）浅井、朝倉連合軍が陣を造り信長軍に対峙した山、この時は両軍和解している。山頂周辺には石垣の石や階段の跡などが見つけられる。壺笠山城は、西に神輿山（白鳥山）、北に忠兵衛山（青山）の三つ峰のから成り、道は繋がっていたらしいが現在は藪漕ぎとなる。壺笠山の山腹から無動寺方向の展望は素晴らしい。坂本辺りからこの山を見ると壺を置いたような山容をしている。比叡山東麓主稜線から湖岸に向かう尾根に位置し見通しもよく白鳥越の古道も通る要所であり城をつくるには最適の地であったらしい。

白鳥越：京の一乗寺から近江穴太、坂本への古道。夢見ヶ丘の青山を通るので青山越ともいう。なお忠兵衛山も青山と呼ばれ文献資料も多く、青山城もあったという。

四ツ谷川：建武3年（1336）比叡山の後醍醐天皇を取り巻き、足利尊氏が白鳥越に軍を進めて、四ツ谷川を挟んで対戦、平子谷が大勢の戦死者で埋まったという。その数は数百人であったとも。現在平子谷林道がある。

無動寺建立相応和尚傳：相応（831~918）は伝教大師最澄の孫弟子で慈覚大師円仁の弟子。文徳天皇が急病で倒れたとき、空海の弟子で高僧の柿本紀僧正真済が病氣平癒の祈禱を行ったが翌日崩御された。皇位継承争いで紀氏血族の第一皇子惟高親王を推す真済が摂政藤原良房娘明子（染殿后）の第四皇子惟仁親王（清和天皇）を推す比叡山の天台僧惠亮と皇位継承祈禱で敗れたが、染殿后が鬼のため脳乱する事件が有り真済が参内し祈禱すると取り付いていた鬼は退散し後のやまいは治癒した。しかし真済はこのとき見かけた後の美貌にこころ奪われついに餓死する、そして天狗道に墮ち后に取り憑いてしまう、または皇位継承争いの祈禱で敗れ、悩んだ末に他界し、やがて天狗となって染殿后明子に取り憑いたと言う。[今昔物語集では金峰山（金剛山）の聖人が鬼に化した]真済もまた明王真言を唱えているので高僧達が祈禱しても全く効き目は無い。

相応が呼ばれ祈祷したが反応しただけで解放は出来ない、無動寺に戻り不動明王に祈ると大威徳明王の咒で加持すれば結縛出来ると聞こえた、相応は再びお告げの通り加持すると真済しんぜいを呪縛することに成功、後は何事も無かったように平常に戻られた。(その他、今昔物語集ほか幾多の書物に染殿后と天狗 鬼 の逸話がある)

延喜 18 年 (918) 11 月 3 日相応寂滅、無動寺の方向に瑞雲たなびき香気が満ちたという。滋賀県伊香立の地名も相応が修行地葛川からの帰路この辺りで香気が立ちこめた所から伊香立 (異香立) とついた。(前は筏津、筏立郷とか)

#### 《藤原一族と紀一族の争いが原形》

柿本かきのもと僧正真済しんぜい (俗姓紀朝臣) は紀氏始祖武内宿禰 20 世の孫、後に「應天門の変」で大伴氏と共に政治界から没落する悲劇の紀氏一族で、僧であり貴族でもあった。空海の高弟で空海を支えた人で大僧正の位を辞退し感激した天皇は空海にその位を譲る。東寺、神護寺、東大寺などあずか与る。空海入定後その遺跡を遍歴した。八十八ヶ所巡りの始まりともされる。61 歳で入寂。